

15 新技術を活用した公共交通について

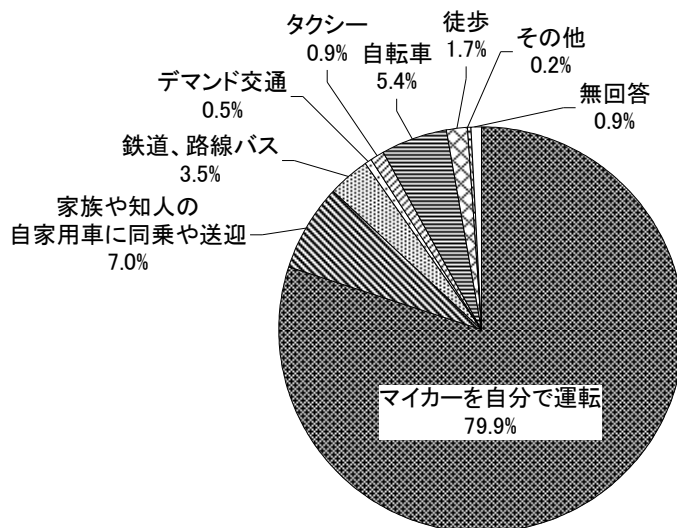
(1) 日常生活における交通手段

問36 あなたは日常生活において、どのような交通手段を利用していますか。次の中から1つ選んでください。(複数ある場合は最も利用回数が多いものを選んでください。)

[n=1,307]

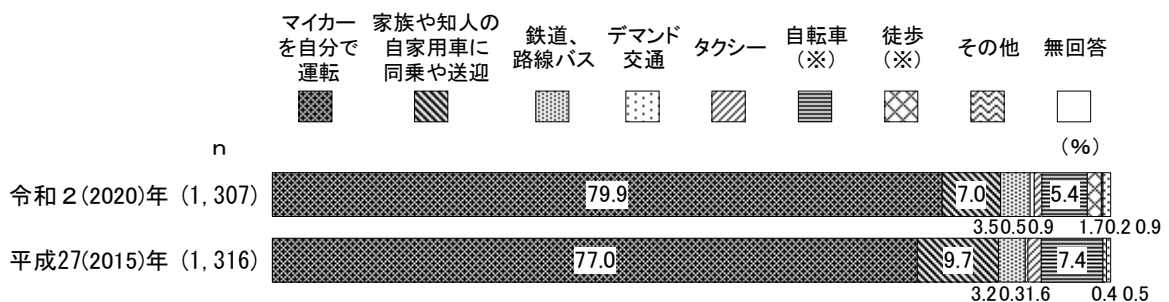
1	マイカーを自分で運転	79.9%	5	タクシー	0.9%
2	家族や知人の自家用車に同乗や送迎	7.0	6	自転車	5.4
3	鉄道、路線バス	3.5	7	徒歩	1.7
4	デマンド交通(※)	0.5	8	その他	0.2
				(無回答)	0.9

※ デマンド交通とは、地域の移動手段として市町村が運行している予約型の公共交通のことをいいます。



(n=1,307)

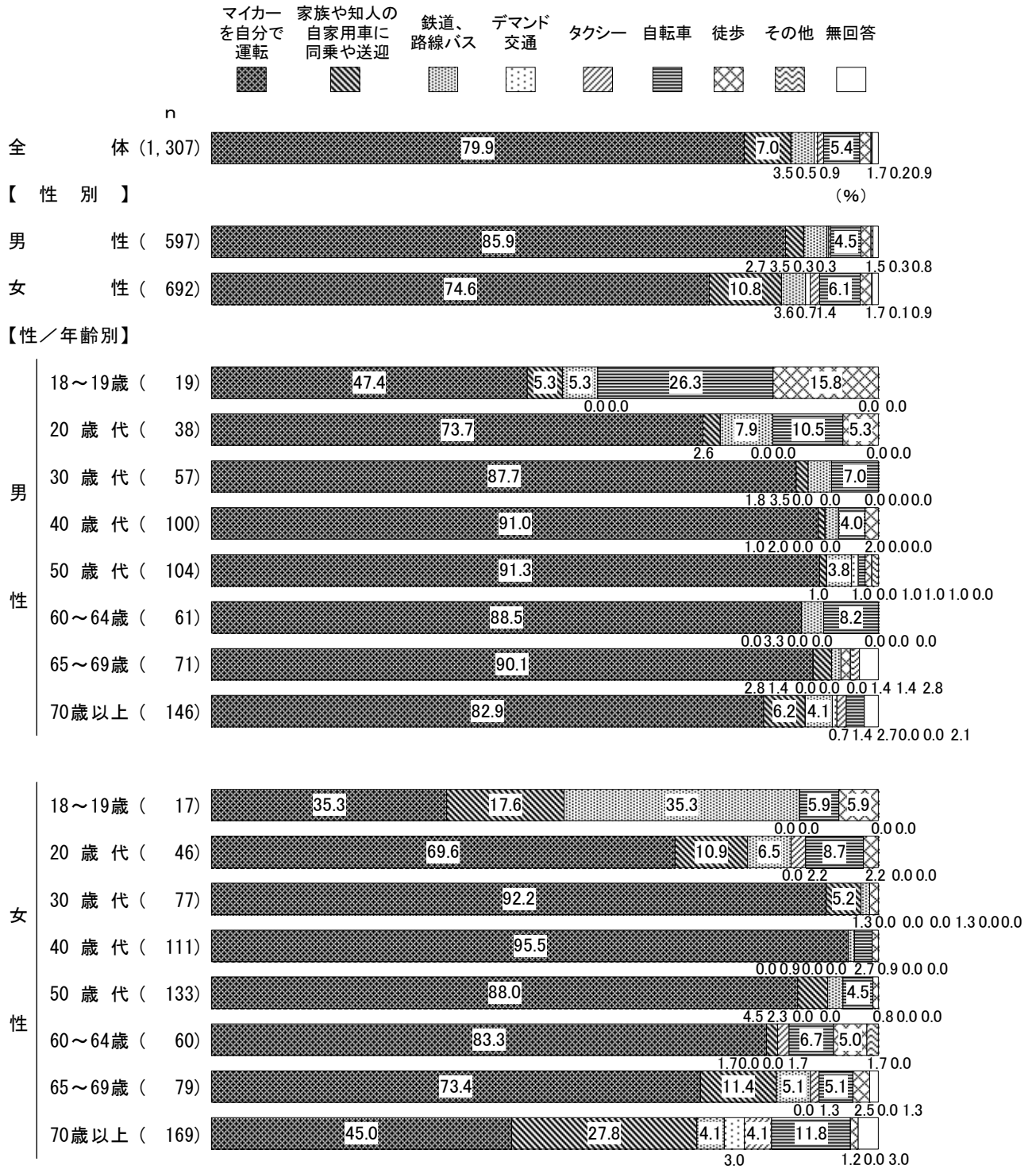
全体でみると、「マイカーを自分で運転」(79.9%)が8割で最も高く、次いで「家族や知人の自家用車に同乗や送迎」(7.0%)、「自転車」(5.4%)、「鉄道、路線バス」(3.5%)の順となっている。



(※) 「自転車」と「徒歩」は、平成27(2015)年調査では1つの選択肢「徒歩、自転車」(7.4%)としていた。作図の便宜上、平成27(2015)年調査の「徒歩、自転車」(7.4%)は「自転車」の項目に示した。

平成27(2015)年の調査結果との比較は、一部の選択肢が変更されているため参考にとどまるが、大きな傾向の違いはみられない。

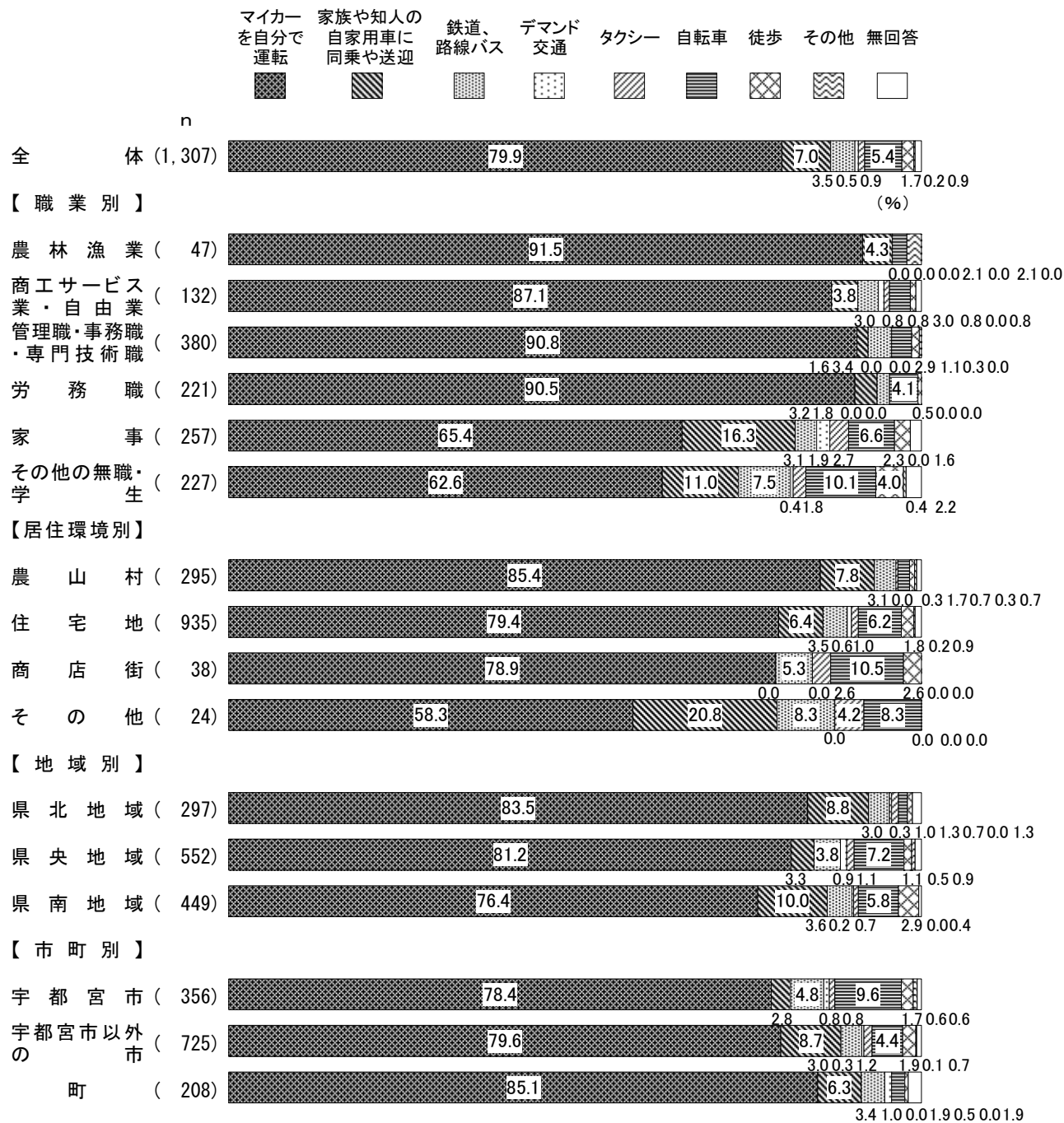
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「マイカーを自分で運転」では〈男性〉(85.9%)が〈女性〉(74.6%)より11.3ポイント高くなっている。「家族や知人の自家用車に同乗や送迎」では〈女性〉(10.8%)が〈男性〉(2.7%)より8.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「マイカーを自分で運転」では〈女性40歳代〉が95.5%、〈女性30歳代〉が92.2%、〈男性50歳代〉が91.3%、〈男性40歳代〉が91.0%、〈男性65～69歳〉が90.1%と高くなっている。「家族や知人の自家用車に同乗や送迎」では〈女性70歳以上〉が27.8%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別で見ると、「マイカーを自分で運転」では〈農林漁業〉が91.5%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が90.8%、〈労務職〉が90.5%、〈商工サービス業・自由業〉が87.1%と高くなっている。「家族や知人の自家用車に同乗や送迎」では〈家事〉が16.3%となっている。

居住環境別で見ると、「マイカーを自分で運転」では〈農山村〉が85.4%と高くなっている。

地域別で見ると、「家族や知人の自家用車に同乗や送迎」では〈県南地域〉が10.0%となっている。

市町別で見ると、「マイカーを自分で運転」では〈町〉が85.1%と高くなっている。

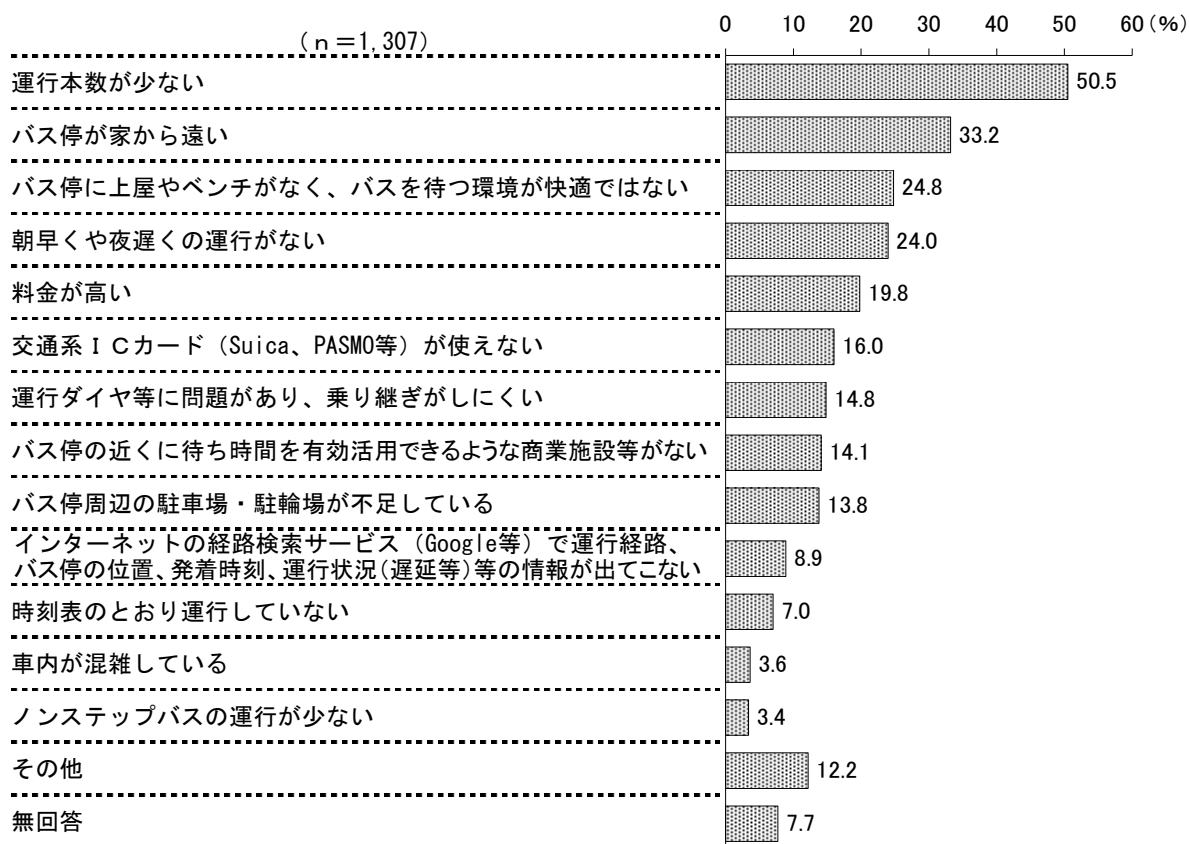
(2) 路線バスに対する不満

問37 少子高齢化が進行する中、県では公共交通の確保・充実に向けた取組を進めています。あなたは、路線バスのどのような点に不満を感じていますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,307]

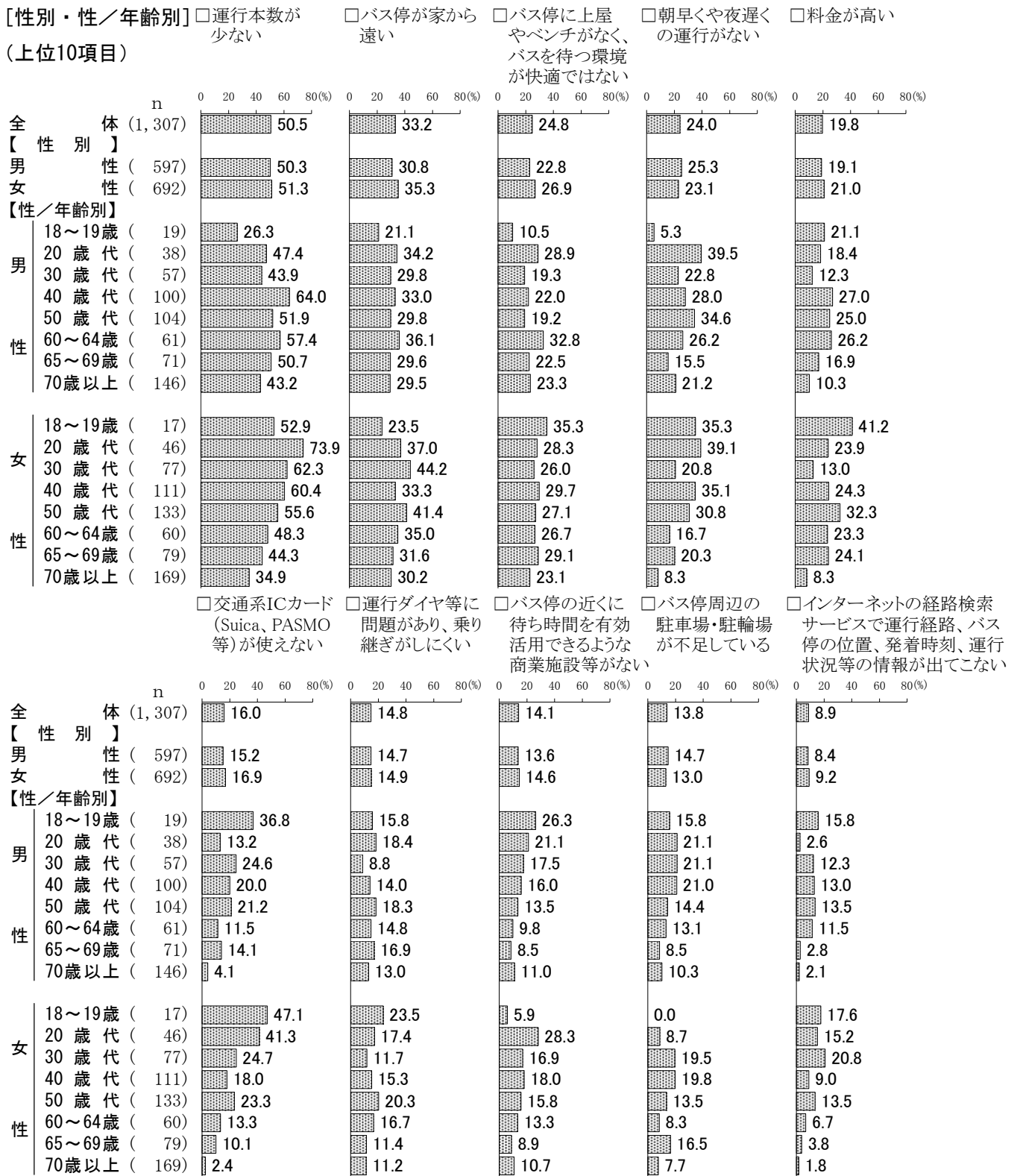
1 運行本数が少ない	50.5%	10 交通系 I C カード (Suica、PASMO等) が使えない	16.0%
2 朝早くや夜遅くの運行がない	24.0	11 インターネットの経路検索サービス (Google等) で運行経路、バス停の位置、発着時刻、運行状況 (遅延等) 等の情報が出てこない	8.9
3 運行ダイヤ等に問題があり、乗り継ぎがしにくい	14.8	12 バス停に上屋やベンチがなく、バスを待つ環境が快適ではない	24.8
4 時刻表のとおり運行していない	7.0	13 バス停の近くに待ち時間を有効活用できるような商業施設等がない	14.1
5 料金が低い	19.8	14 その他 (無回答)	7.7
6 車内が混雑している	3.6		
7 バス停が家から遠い	33.2		
8 バス停周辺の駐車場・駐輪場が不足している	13.8		
9 ノンステップバス(※)の運行が少ない	3.4		

※ ノンステップバスとは、バスの床面を低くして乗降ステップをなくし、バリアフリー化されたバスのことをいいます。



全体でみると、「運行本数が少ない」(50.5%)がほぼ5割で最も高く、次いで「バス停が家から遠い」(33.2%)、「バス停に上屋やベンチがなく、バスを待つ環境が快適ではない」(24.8%)、「朝早くや夜遅くの運行がない」(24.0%)、「料金が低い」(19.8%)の順となっている。

【性別・性／年齢別】
(上位10項目)

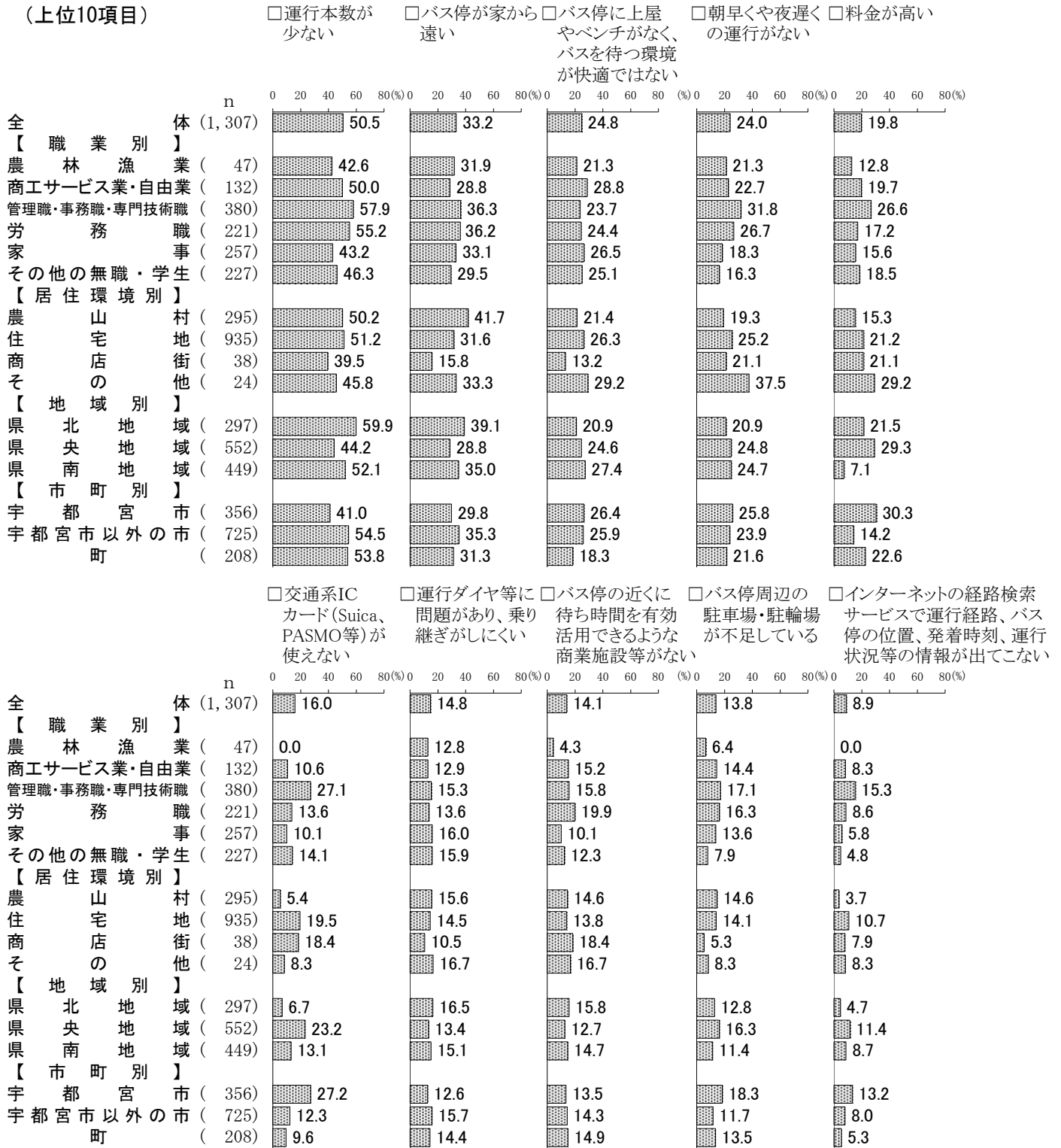


性別でみると、「バス停が家から遠い」では〈女性〉(35.3%)が〈男性〉(30.8%)より4.5ポイント高くなっている。「バス停に上屋やベンチがなく、バスを待つ環境が快適ではない」では〈女性〉(26.9%)が〈男性〉(22.8%)より4.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「運行本数が少ない」では〈女性20歳代〉が73.9%、〈男性40歳代〉が64.0%、〈女性30歳代〉が62.3%と高くなっている。「バス停が家から遠い」では〈女性30歳代〉が44.2%と高くなっている。「朝早くや夜遅くの運行がない」では〈男性20歳代〉が39.5%、〈女性20歳代〉が39.1%と高くなっている。「料金が高い」では〈女性50歳代〉が32.3%と高くなっている。「交通系ICカード(Suica、PASMO等)が使えない」では〈女性20歳代〉が41.3%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]

(上位10項目)



職業別でみると、「運行本数が少ない」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が57.9%と高くなっている。「交通系ICカード(Suica、PASMO等)が使えない」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が27.1%と高くなっている。

居住環境別でみると、「バス停が家から遠い」では〈農山村〉が41.7%と高くなっている。

地域別でみると、「運行本数が少ない」では〈県北地域〉が59.9%と高くなっている。「バス停が家から遠い」では〈県北地域〉が39.1%と高くなっている。

市町別でみると、「料金が安い」では〈宇都宮市〉が30.3%と高くなっている。「交通系ICカード(Suica、PASMO等)が使えない」では〈宇都宮市〉が27.2%と高くなっている。

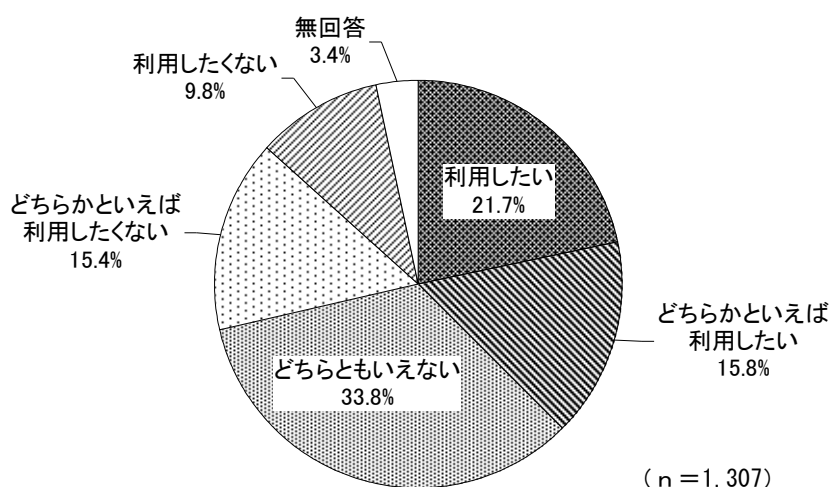
(3) 自動運転システムが導入された路線バスの利用意向

問38 現在、運転手不足などの理由により、バス路線の維持が困難な状況となっており、解決策の1つとして、路線バスに自動運転システムを導入する取組が進められています。

あなたは、自身が日常生活において路線バスを利用するとなった場合、自動運転システムが導入されたバスを利用したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

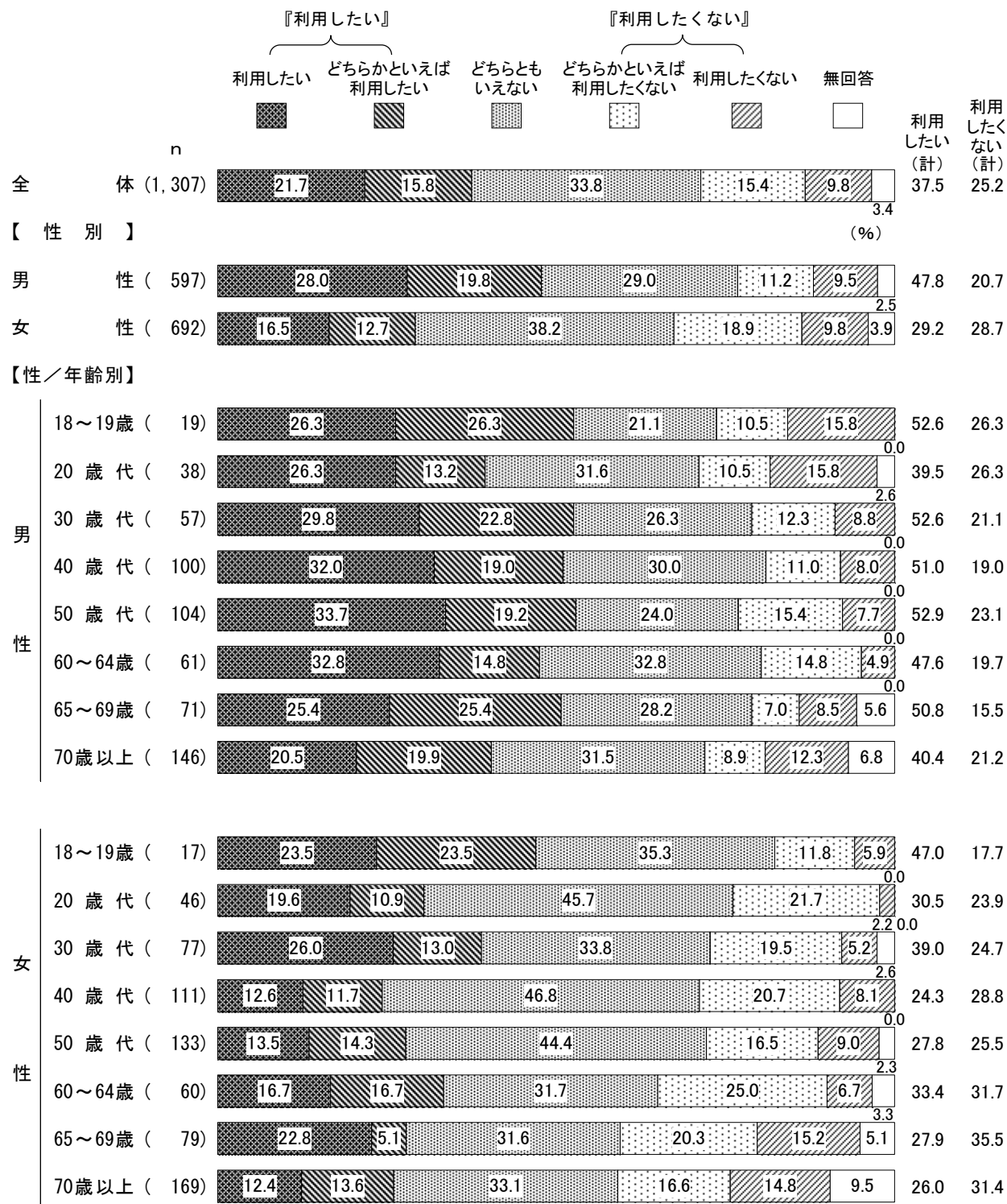
[n=1,307]

1	利用したい	21.7%	4	どちらかといえば利用したくない	15.4%
2	どちらかといえば利用したい	15.8%	5	利用したくない	9.8%
3	どちらともいえない	33.8%		(無回答)	3.4%



全体で見ると、「利用したい」(21.7%)と「どちらかといえば利用したい」(15.8%)の2つを合わせた『利用したい』(37.5%)が4割近くとなっている。一方、「どちらかといえば利用したくない」(15.4%)と「利用したくない」(9.8%)の2つを合わせた『利用したくない』(25.2%)が2割半ばとなっている。また、「どちらともいえない」(33.8%)が3割を超えている。

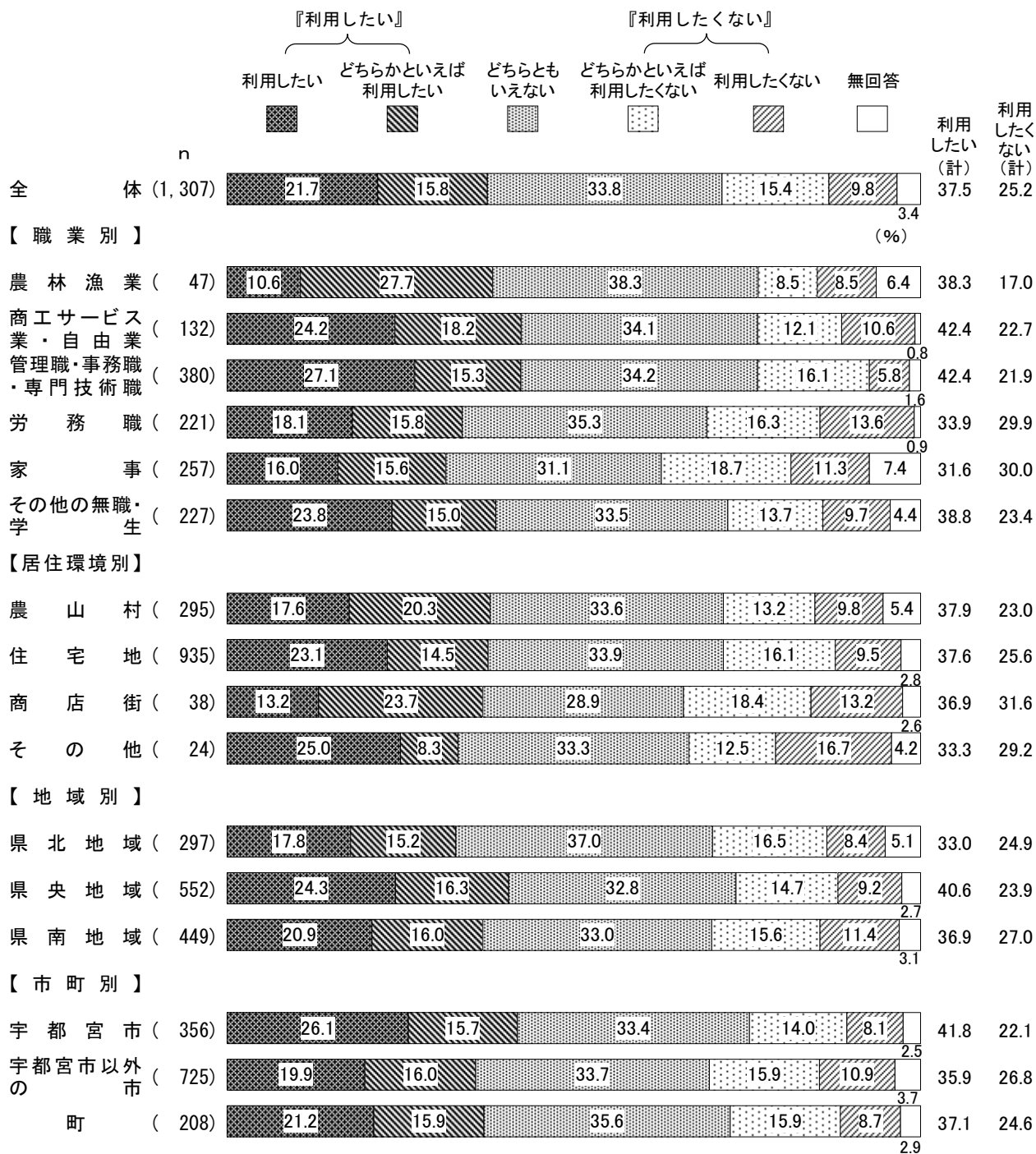
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『利用したい』では〈男性〉(47.8%)が〈女性〉(29.2%)より18.6ポイント高くなっている。一方、『利用したくない』では〈女性〉(28.7%)が〈男性〉(20.7%)より8.0ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『利用したい』では〈男性50歳代〉が52.9%、〈男性30歳代〉が52.6%、〈男性40歳代〉が51.0%、〈男性65～69歳〉が50.8%と高くなっている。一方、『利用したくない』では〈女性65～69歳〉が35.5%と高くなっている。

【職業別・居住環境別・地域別・市町別】



職業別でみると、『利用したい』では〈商工サービス業・自由業〉と〈管理職・事務職・専門技術職〉がともに42.4%と高くなっている。

居住環境別でみると、『利用したくない』では〈商店街〉が31.6%と高くなっている。

地域別でみると、『利用したい』では〈県央地域〉が40.6%と高くなっている。

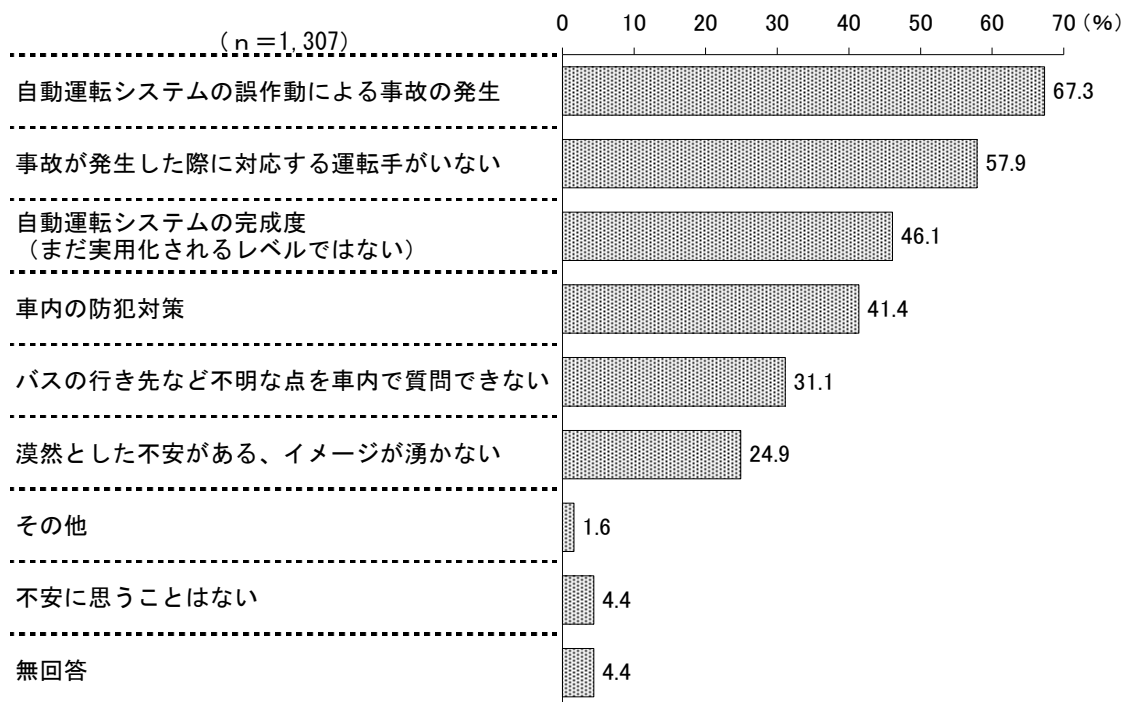
市町別でみると、『利用したい』では〈宇都宮市〉が41.8%と高くなっている。

(4) 路線バスに自動運転システムを導入することへの不安

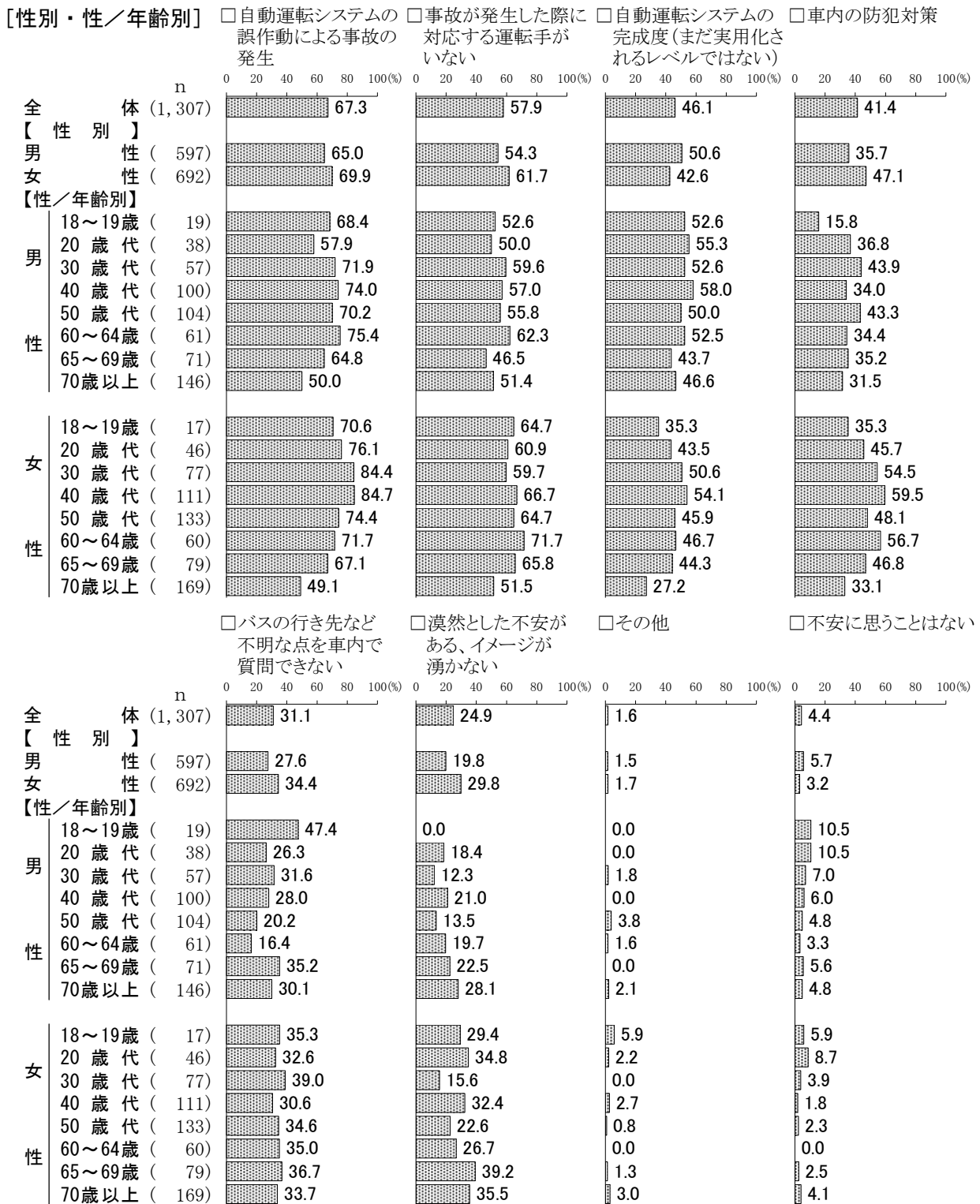
問39 あなたは、路線バスに自動運転システムを導入することについて不安に思うことはありますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,307]

1	自動運転システムの完成度（まだ実用化されるレベルではない）	46.1%
2	自動運転システムの誤作動による事故の発生	67.3
3	車内の防犯対策	41.4
4	事故が発生した際に対応する運転手がない	57.9
5	バスの行き先など不明な点を車内で質問できない	31.1
6	漠然とした不安がある、イメージが湧かない	24.9
7	その他	1.6
8	不安に思うことはない	4.4
	(無回答)	4.4



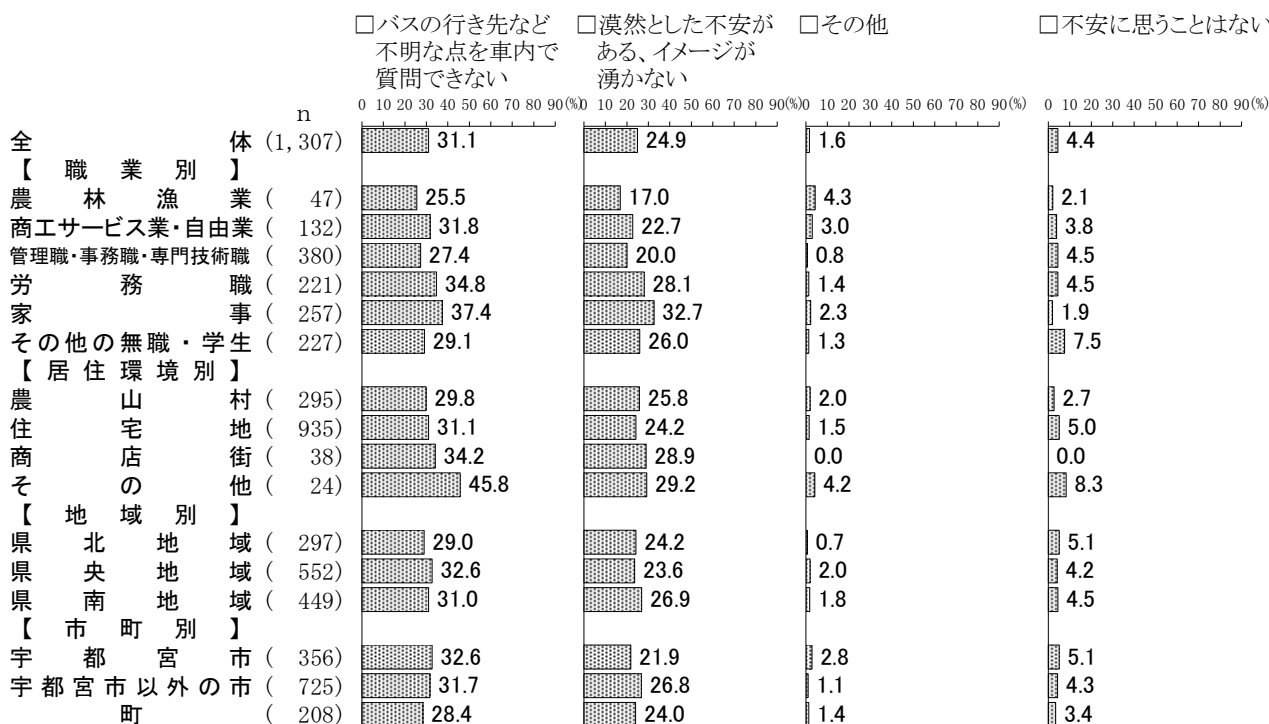
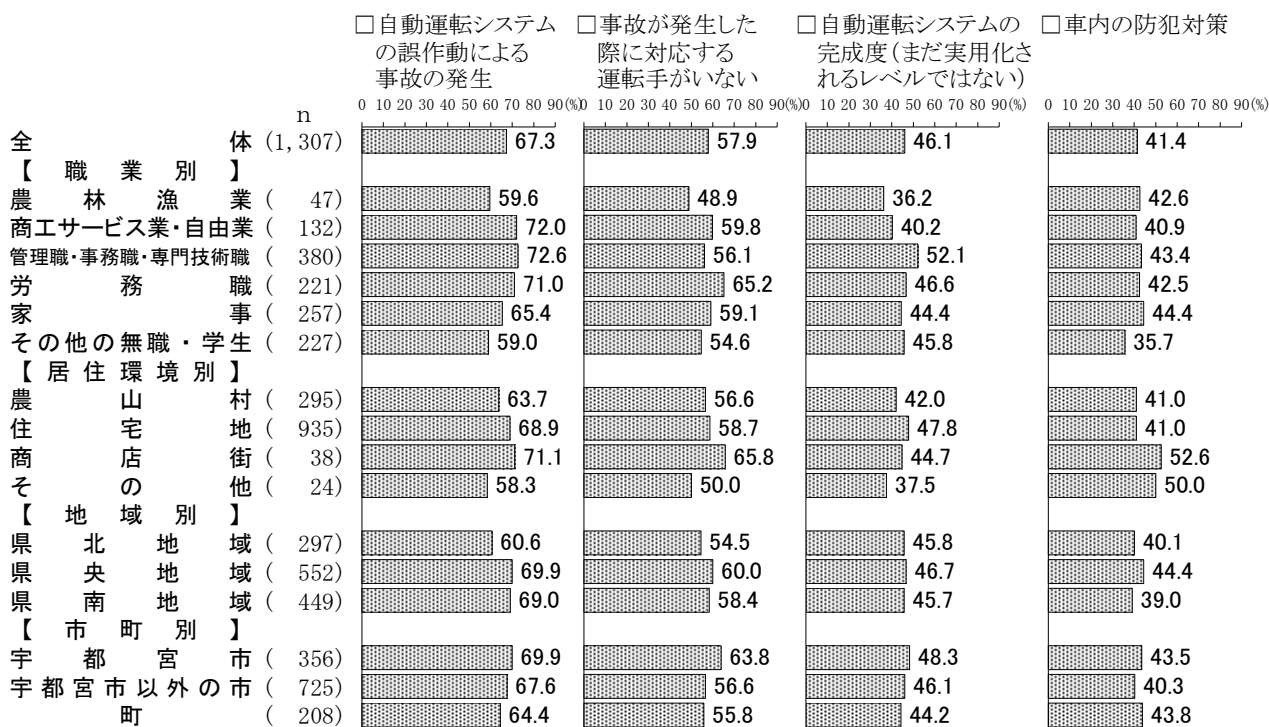
全体で見ると、「自動運転システムの誤作動による事故の発生」(67.3%)が7割近くで最も高く、次いで「事故が発生した際に対応する運転手がない」(57.9%)、「自動運転システムの完成度（まだ実用化されるレベルではない）」(46.1%)、「車内の防犯対策」(41.4%)、「バスの行き先など不明な点を車内で質問できない」(31.1%)の順となっている。



性別で見ると、「車内の防犯対策」では〈女性〉(47.1%)が〈男性〉(35.7%)より11.4ポイント高くなっている。「漠然とした不安がある、イメージが湧かない」では〈女性〉(29.8%)が〈男性〉(19.8%)より10.0ポイント高くなっている。「自動運転システムの完成度(まだ実用化されるレベルではない)」では〈男性〉(50.6%)が〈女性〉(42.6%)より8.0ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「自動運転システムの誤作動による事故の発生」では〈女性40歳代〉が84.7%、〈女性30歳代〉が84.4%と高くなっている。「事故が発生した際に対応する運転手がない」では〈女性60～64歳〉が71.7%と高くなっている。「自動運転システムの完成度(まだ実用化されるレベルではない)」では〈男性40歳代〉が58.0%と高くなっている。「車内の防犯対策」では〈女性40歳代〉が59.5%、〈女性60～64歳〉が56.7%、〈女性30歳代〉が54.5%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「自動運転システムの誤作動による事故の発生」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が72.6%と高くなっている。「事故が発生した際に対応する運転手がない」では〈労務職〉が65.2%と高くなっている。「自動運転システムの完成度(まだ実用化されるレベルではない)」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が52.1%と高くなっている。

居住環境別でみると、「車内の防犯対策」では〈商店街〉が52.6%と高くなっている。

地域別でみると、「自動運転システムの誤作動による事故の発生」では〈県央地域〉が69.9%、〈県南地域〉が69.0%と高くなっている。

市町別でみると、「事故が発生した際に対応する運転手がない」では〈宇都宮市〉が63.8%と高くなっている。